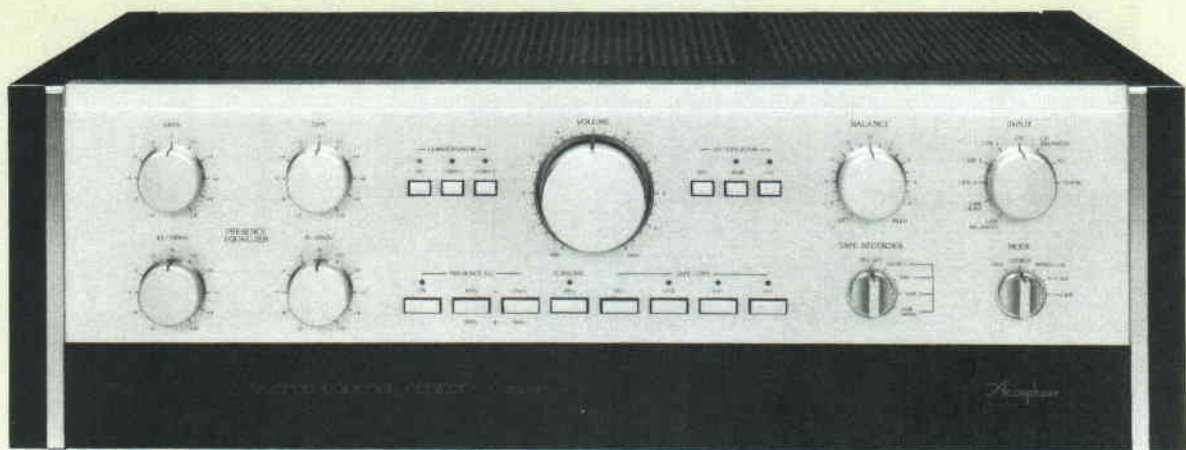


STEREO CONTROL CENTER

C-200V

ステレオ・コントロール・センター

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く(お買上げ後10日以内)にご返送ください。お客様カードと引きかえに保質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

特長	1
各部の名称と動作説明	2
接続図	8
ご使用方法	9
ご注意	11
ブロック・ダイアグラム	12
保証特性	13
特性グラフ	15

特長

■新時代の理想アンプ『カスコード・ブートストラップ・コンプリメンタリーA級プッシュプル』方式

C-200Vはアキュフェーズが一貫して採用している『全段プッシュプル構成』を基本に、回路的には上級機C-280Lの流れをくむ充実のコントロール・センター(プリアンプ)です。基本となる増幅回路は、高域特性、リニアリティー、S/N等の素特性に優れた『カスコードA級プッシュプル』で構成、各ユニットアンプの随所に採用し極限的な性能を実現しています。

カスコード接続の特長は、入出力間のフィードバックが少なく、特に高域において良好な特性が得られることです。また、利得が大きく、素子の動作限界までリニアリティーが保たれ、ひずみが減少しS/Nも改善され、増幅器として理想的な性能が期待できます。本機はこれをA級プッシュプルで構成することにより、素特性を更に改善しました。

重要な電源部は、左右チャンネル各基板上に本格的な定電圧電源回路を配置して強化しました。

■アナログ・ディスクのディテールを余すことなく再現するMC/MMイコライザーアンプ

デジタル時代とはいえ、歴史的な名演のアナログ・ディスクも同等に大切です。本機のアナログ・ディスク用イコライザーアンプは、ハイゲイン・イコライザーアンプの利得を切り替える方式ですが、それぞれのカートリッジの特性に合わせた専用入力回路を設け、MC専用ヘッドアンプ使用時に匹敵する性能を確保しました。また、MCカートリッジのインピーダンスによって負荷抵抗を選択する『MC LOAD』切り替えを備えました。10、30、100Ωの3種類を選ぶことができます。

イコライザーは小レベルの信号を扱うことから、電源部も信号回路と同等に重要です。本機はイコライザー基板上に本格的な定電圧電源を装備し、強化を図り完全を期しました。

■全ユニットアンプにDCサーボ方式を採用。AD入力から出力まで純粋にストレートな構成

ICによる『DCサーボ回路』は、出力に発生した直流を検知して入力に帰還し、出力が正しくゼロ電位を保つように働いて、DCドリフトの発生を防ぎます。これにより、AD入力から出力まで全信号系が直結になり、カラレーションのない、質の高い再生音を期待することができます。

■ケーブルによる音質劣化を解消したバランス入出力回路

RCAタイプ・フォノジャックによる一般的なアンバランス型入出力と、放送局や業務用の機器で広く使われている本格的なバランス入出力を装備しています。

■ロジック・リレーコントロールによりストレートで最短の信号経路

入力切り替えやテープモニター等のファンクションのために信号経路を引き回すことは、高域の劣化や不安定現象を誘発します。C-200Vは最短でストレートな信号経路を構成するため、スイッチが必要なその場所にリレーを設置し、これらのリレーをロジック回路で電子的にコントロールして切り替えを行なっています。

なお、リレーは密閉型のオーディオ専用リレーを使用、信頼性と長期耐久性を向上させています。

■4ポイント6種類の周波数をコントロールする『プレゼンス・イコライザー』

高品位音質時代こそ、音楽の表現を微細にコントロールできる音質調整機能が欲しいものです。そのためには多素子のグラフィック・イコライザーが適していますが、逆にキー数が多過ぎて使いこなしが困難です。

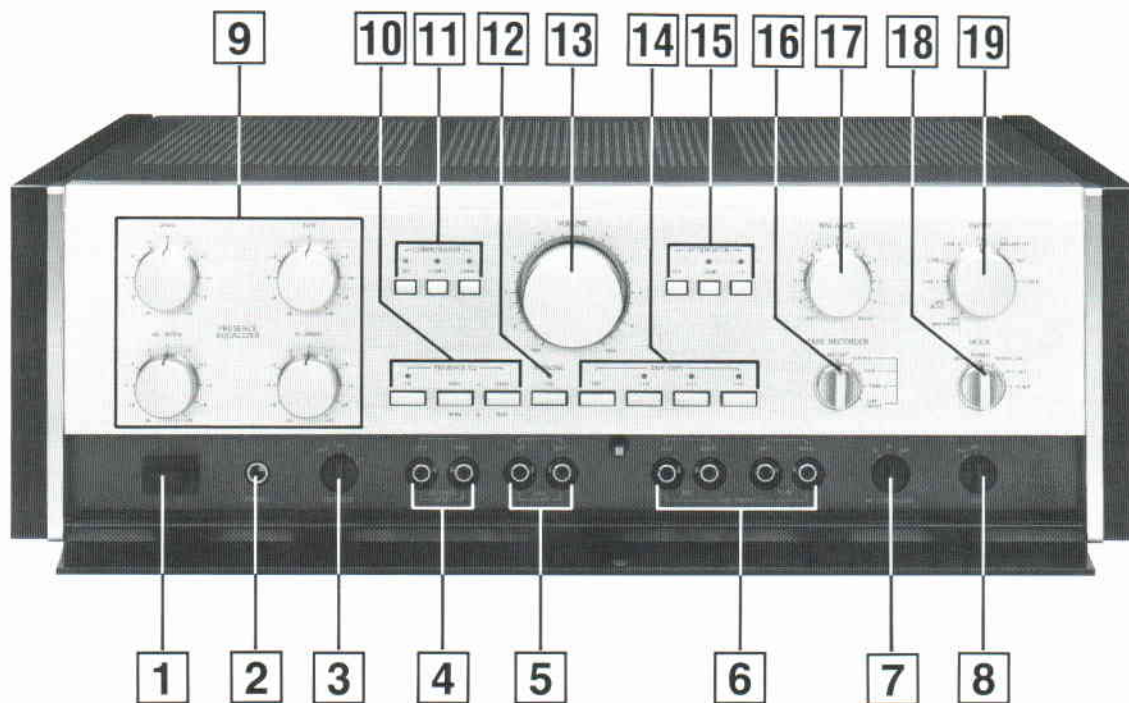
本機に新しく搭載したプレゼンス・イコライザーはプログラムのイコライゼーションを目的とし、最も効果的に音楽表現を調整できるように配慮しました。周波数の可変範囲は4ポイント6種類です。

中音域は中心周波数が500Hzと2kHzで、500Hzはリズム楽器の表現に、また2kHzはヴォーカルの出方を微細にコントロールします。低音・高音はそれぞれ2種類の周波数を選択でき、全体のエネルギー・バランスと雰囲気調整することが可能です。

■小音量時のエネルギー・バランスを自動的に補正するラウドネス・コンベンセーター

小音量再生時の聴感を補正し、エネルギー・バランスを整えるラウドネス・コンベンセーター・スイッチを設けました。再生レベルやリスニング・ルームの特性に応じて2種類のカーブを選ぶことができます。

各部の動作説明



1 POWER—電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3.5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

2 PHONES—ヘッドフォン出力ジャック

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、このジャックにヘッドフォンのプラグを差し込んでください。インピーダンス4~100Ωのヘッドフォンをご使用ください。ヘッドフォン・プラグを差し込んでも本機の4系統の出力端子の信号は切れませんので、ヘッドフォンだけで聴くときは、③OUTPUTSスイッチで出力を切るか、パワーアンプの出力をしぼってください。

3 OUTPUTS—出力ON/OFFスイッチ

このスイッチをOFFにすると、C-200Vの出力4系統すべての信号が切れます。“1 & 2”、“1”および“2”の位置では、リアパネル⑤のOUTPUT-1およびOUTPUT-2の出力のそれぞれから信号を出したり、同時にしたりします。

リアパネル⑥のバランス出力コネクターとフロント・パネ

ル④OUTPUT FRONTの出力は、このスイッチを“OFF”にしないかぎり常時出ています。

通常はこのスイッチを“1 & 2”のポジションにしてご使用ください。使用していない出力端子の信号は切らなくても差し支えありません。

4 OUTPUT FRONT—出力端子

リアパネル側⑤OUTPUTSと同じように、本機の出力を取り出すことができます。

5 LINE FRONT—ライン入力端子

リアパネル⑦の入力端子と同じように、CDプレーヤー、チューナー、テープレコーダーの出力を接続して使うことができます。

6 TAPE FRONT—テープレコーダー 録音/再生端子

本機の前面からテープレコーダーを接続して録音、再生をすることができる大変便利な入出力端子です。

REC端子にはテープレコーダーのLINE INを接続し、PLAY端子にはLINE OUTの接続ケーブルをつないでくださ

い。プログラム・ソースのレコーディングをするときは、⑩の TAPE RECORDER スイッチを REC OFF 以外のポジションにしておいてください。REC 端子の出力は本機のボリュームやプレゼンス・イコライザー、コンペンセーターなどには一切関係しませんので、録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。また、⑬MODE スイッチが“MONO”になっているときは、出力もモノフォニック状態になります。録音時にはご注意ください。

7 MC LOAD(OHMS)—MCカートリッジ負荷インピーダンス・セレクター

MCカートリッジの負荷インピーダンス(AD INPUTの入力インピーダンス)を切り替えるスイッチです。原則的にはMCカートリッジの内部インピーダンス(出力インピーダンスともいう)が20Ω以上あるときは“100Ω”ポジション、それ以下のときは“30Ω”あるいは“10Ω”を使います。つまり、カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上のインピーダンスを目安にしてください。しかし20Ω以下のものを“100Ω”で受けて大変良い音質が得られる場合もありますので、実際に試聴をして決定してください。ただし、ステップアップ・トランスと違って、カートリッジの内部インピーダンスと同等、またはそれ以下の負荷インピーダンス値では振動系が過制動の状態になり、低域不足で中高域が細く、硬質な音になります。

8 AD—イコライザー・ゲイン切替スイッチ

イコライザー・アンプのゲイン(利得)を切り替えるスイッチです。MCカートリッジを使用するときは“MC”ポジション、MMカートリッジのときは“MM”ポジションにしてください。MM型カートリッジを使用中に、あやまって“MC”にしますと、音量が大きくなり高域の出ないバランスのくずれた音になりますのでご注意ください。

9 PRESENCE EQUALIZER—プレゼンス・イコライザー

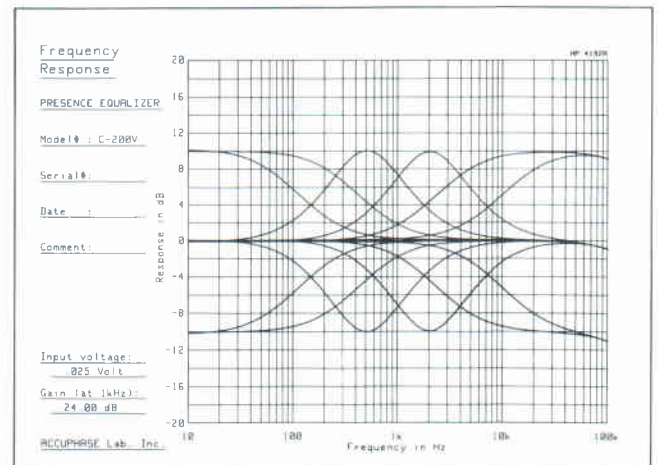
高品質時代にそなえてC-200Vは、音楽の表現を微細にコントロールすることができるプレゼンス・イコライザーを装備しました。

プレゼンス・イコライザーはプログラム・ソースのイコライゼーションを目的とし、最も効果的に音楽表現を調整できるように配慮されています。周波数の可変範囲は下図の通り、4ポイント6種類、最大変化量は±10dBです。

上段にある二つのツマミは中音域を調整するもので、中心周波数が500Hzと2kHzで、500Hzはリズム楽器の表現に、また2kHzはヴォーカルの出方を微細にコントロールします。

下段は左側が低音部、右が高音部のコントロール・ツマミで、それぞれ2種類の周波数を選択することができ、全体のエネルギー・バランスと雰囲気調整するのに効果的です。

それぞれのコントロールは⑩の左端、プレゼンス・イコライザーON/OFFスイッチを“ON”にしたときに作動します。



10 PRESENCE EQ—プレゼンス・イコライザーON/OFFおよび周波数切替スイッチ

プレゼンス・イコライザー回路のON/OFFおよび低音部と高音部の周波数を切り替えるスイッチです。

左端がこの回路のON/OFFスイッチで、押してLED(発光ダイオード)が点灯して“ON”です。次が低音部の周波数切替スイッチで、押して40Hz以下(40Hz以下で最大変化量が得られる)の周波数コントロール、手前に出すと100Hz以下をコントロールします。同じように、右端が高音部の周波数を切り替えます。押して20kHz以上、手前で8kHz以上となります。

11 COMPENSATOR—聴感補正スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスのくずれを補正するものです。

人の聴感特性はボリュームを下げたときに、その音量により低音感が不足してきたり、低音、高音共に不足して聴こえてきます。この不足分の量感を補うためにこのスイッチが大変有効です。COMP-1では低音だけを100Hzで+3dB、COMP-2では100Hzで低音を+8dB、高音域を20kHzで+6dB増強します。この増強する量はボリュームを-30dBまでしぼったときの値で、音量を上げれば自動的に増強量は減少します。

それぞれのスイッチは押して“ON”となり、押されているポジションのLEDが点灯します。

12 SUBSONIC—サブソニック・フィルター

サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域10Hz以下を-18dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域を乱さないようにするフィルターです。超低域の振動でウーファーがゆれているプログラム・ソースなどに大変有効です。

13 VOLUME—ボリューム調整ツマミ

右へまわすと音量が増大します。ディスクをかけたり、プログラム・ソースを切り替えたり、電源を切るときなどは、ボリュームを下げることを習慣づけましょう。

14 TAPE COPY—テープコピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使ってテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。リアパネル④のTAPE-1に接続したテープレコーダーをマスターにしてTAPE-2のテープレコーダーでコピーする場合は“1→2”を押します。TAPE-2からTAPE-1へのコピーは逆で“2→1”になり、同じように、TAPE-1からサブパネルのTAPE FRONTへのコピーは“1→F”を押してください。

テープレコーダー相互間でコピーをするときは⑤のTAPE RECORDERスイッチがREC OFFポジションにあっても無関係です。

コピーをしているときにTAPE RECORDERスイッチをSOURCEにしておけば、他のプログラム・ソースを聴きながら、まったく独立してコピーを続けることができます。

また“1→2”でコピーをしているときにTAPE RECORDERスイッチを“TAPE-1”にすればTAPE-1の再生状態の確認をすることができ、“TAPE-2”にすればコピーされたテープをモニターしながらのコピーができます。他のポジションも同じ要領です。

15 ATTENUATOR—アッテネーター

本機の実出力レベルを瞬時に減衰させることができます。右端の“-∞”はボリュームをしぼりきった状態、つまり無音になります。押されているスイッチのLEDが点灯します。

ボリュームを一定のレベルにしておいて、比較試聴をするときなどの頭出しに便利です。また、瞬時に音量を下げたいときにも大変有効です。

16 TAPE RECORDER—録音モニター/録音出力ON/OFFスイッチ

このスイッチが“REC OFF”および“SOURCE”の位置にあるときはTAPE PLAY端子以外の入力端子からの信号を再生することができます。したがって、テープ再生をしないときは必ずこのスイッチを“REC OFF”または“SOURCE”にしておいてください。テープ再生をするときは、リアパネル④のTAPE-1、TAPE-2およびフロント側のTAPE FRONTそれぞれの端子に接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聴きください。

“REC OFF”は3系統のテープレコーダー接続端子のレコーディング出力“REC”の出力を“OFF”にするためのポジションで、SOURCE、TAPE-1、TAPE-2およびTAPE FRONTにすればONです。TAPE COPYスイッチを使ってテープレコーダー相互間のコピーをするときは、“REC OFF”ポジションにあっても無関係です。

テープレコーダーでプログラム・ソースを録音するときは“SOURCE”でプログラム・ソースのチェック、TAPE-1、TAPE-2またはTAPE FRONTへ切り替えることにより、録音されたテープのモニターを、録音を続けながら、することができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

17 BALANCE—バランス調整

右へまわすと左側の音が小さくなり、左へまわすと右側の音が小さくなります。ステレオ再生時の左右チャンネルの音量バランス調整に使います。

18 MODE—モード切替スイッチ

《STEREO》通常のステレオ再生のときは、スイッチをこのポジションにしておいてください。

《REV》ステレオの左右チャンネルを入れ替えた状態の再生ができます。

《MONO(L+R)》左右チャンネルが完全にミックスされますので、両方のスピーカーには、まったく同じ信号が入力され、スピーカーの中央で聴くと音像は中央に定位します。

《R→L&R》両方のスピーカーから、右チャンネルの音だけが出てきます。

《L→L&R》上とは反対に、両方のスピーカーから、左チャンネルの音だけが出てきます。

19 INPUT—入力セレクター

リアパネルおよびフロント・パネルの各入力端子に対応するポジションでプログラム・ソースを選択します。

CD、TUNER、LINE・1～LINE FRONTの6ポジションは一般的なアンバランス方式で、リアパネル④とフロント・パネル⑤の各入力端子へ接続した機器を選択します。定格出力が126mV以上ある機器を接続するかぎり、すべてのポジションは同じ働きをします。

CD(BALANCED)とLINE(BALANCED)はリアパネル②および③へバランス方式で入力した機器を選択します。バランス入力側も定格出力は126mVです。

ADポジションはリアパネル⑩へ接続したアナログ・ディスク・プレーヤーを選択します。高性能ハイゲイン・イコライザーを内蔵している本機は、いかなるカートリッジにも対応することができます。

20 AD INPUT—アナログ・プレーヤー 入力端子

この入力端子はLPレコード・プレーヤーの出力ケーブルを接続してください。本機は高性能ハイゲイン・イコライザーを内蔵していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。入力端子の下にあるGND端子はアース端子です。プレーヤーの出力ケーブルといっしょに出ているアース線を接続してください。

21 INPUTS—ハイレベル入力端子

CD、TUNER、LINEの各入力端子は入力インピーダンス20kΩのアンバランス方式、つまり一般的な入力方式の端子です。出力電圧が126mV以上の機器を接続してください。すべての端子は同じ働きをします。

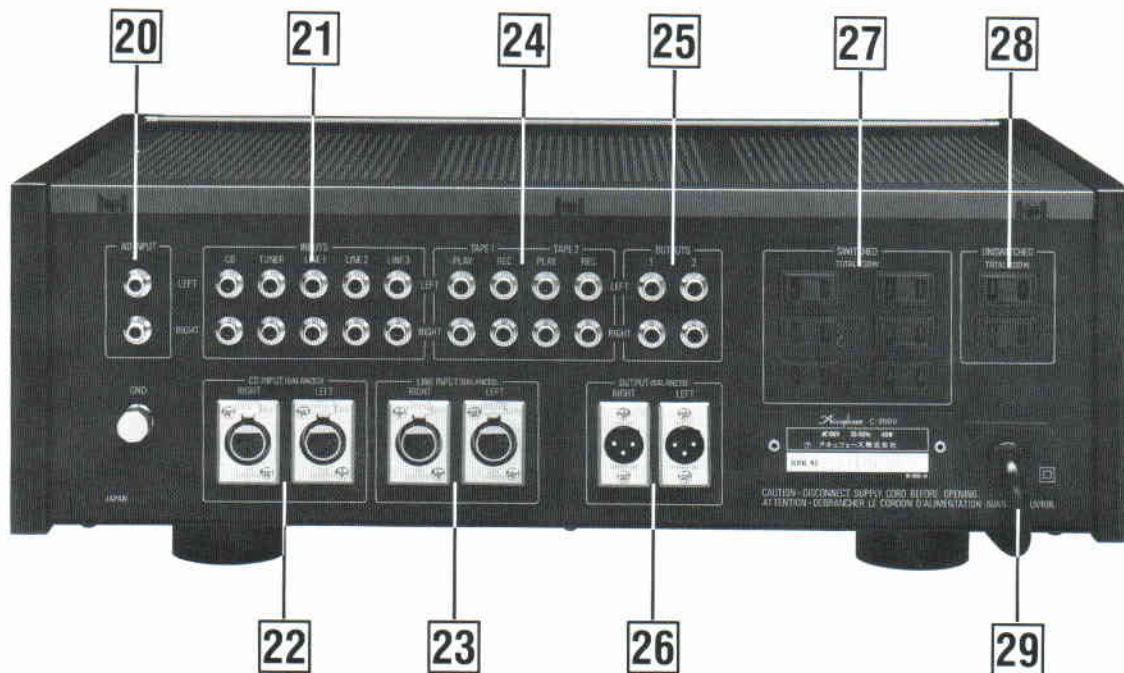
22 CD INPUT(BALANCED)—バランス 入力時のCD入力コネクター

伝送途中の外來雑音によって誘発された不要ノイズをキャンセルし、音質の劣化を防止するバランス伝送は放送局や業務用機器の信号授受に広く使われている方式です。

このXLRコネクターは、入力インピーダンスが40kΩのバランス型になっています。CDプレーヤーと限ることなく、定格出力が126mV以上のバランス出力を持つ機器を接続することができます。ピン接続は①：グランド、②：コールド、③：ホットとなっており、このコネクターは、XLR-3-31相当型です。適合するコネクターはXLR-3-12C相当品です。

23 LINE INPUT(BALANCED)—バラ ンス入力時のライン入力コネクター

CDのバランス入力コネクターと同じように、バランス出力を持つ機器を接続することができます。



24 TAPE-1 / TAPE-2 — テープレコーダー再生/録音端子

TAPE-1、TAPE-2 それぞれにテープレコーダーを接続することができます。“PLAY” 端子には“LINE OUT”の出力ケーブルを、“REC”にはテープレコーダーの“LINE IN”からのケーブルを接続してください。

REC端子の出力信号は、本機のボリュームやプレゼンス・イコライザー、コンペンセーターの影響を受けませんが、モード・スイッチが“MONO”になっているときは、この出力もモノフォニック状態になります。録音時には注意してください。

25 OUTPUTS—出力端子

2系統の出力は、出力インピーダンスが1Ωで、一般の機器と同じアンバランス接続になっています。

通常はこれの1系統を使って出力を取り出してパワーアンプへ導きます。本機は高性能オーディオ・ケーブルを付属しています。付属のケーブルをご使用になるときは、左右チャンネルのケーブルを軽く撚り合わせるか、近接させてテープ等で数箇所を固定し、同じ経路でパワーアンプへ入力するようにしてください。

26 OUTPUT (BALANCED) — バランス出力コネクター

このXLRコネクターは、出力インピーダンス50Ωのバランス接続になっています。入力インピーダンスが600Ω以上のパワーアンプ、その他の機器を接続することができます。ピン接続は①：グラウンド、②：コールド、③：ホットとなっており、このコネクターはXLR-3-32相当型、適合するコネクターはXLR-3-11C相当品です。

なお、XLRコネクターを使用した入力端子でも、アンバランス型になっている機種があります。バランス入力になっていない場合は、本機の出力回路が故障する原因になります。アキュフェーズ・パワーアンプではM-100、M-60、P-400がアンバランス型の入力です。これらの機種とC-200Vを組み合わせるときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へお問い合わせ、ご相談くださいますよう、お願いいたします。

27 SWITCHED—電源スイッチと 連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。接続する機器の消費電力の合計が700Wを越えないようご注意ください。

28 UNSWITCHED—電源スイッチに 連動しないACコンセント

本機の電源コードを室内のコンセントへ接続すると、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。消費電力の合計が200Wを越えないように注意してください。

29 AC電源コード

■AC電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。アンプのACプラグにもこのような極性があり、室内のコンセントとアンプの極性を合わせた方が、音質上良い結果を得られる場合があります。

C-200Vは、電源コードプラグの片側に“W”の刻印が打たれています。このW側が接地側『W極』になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

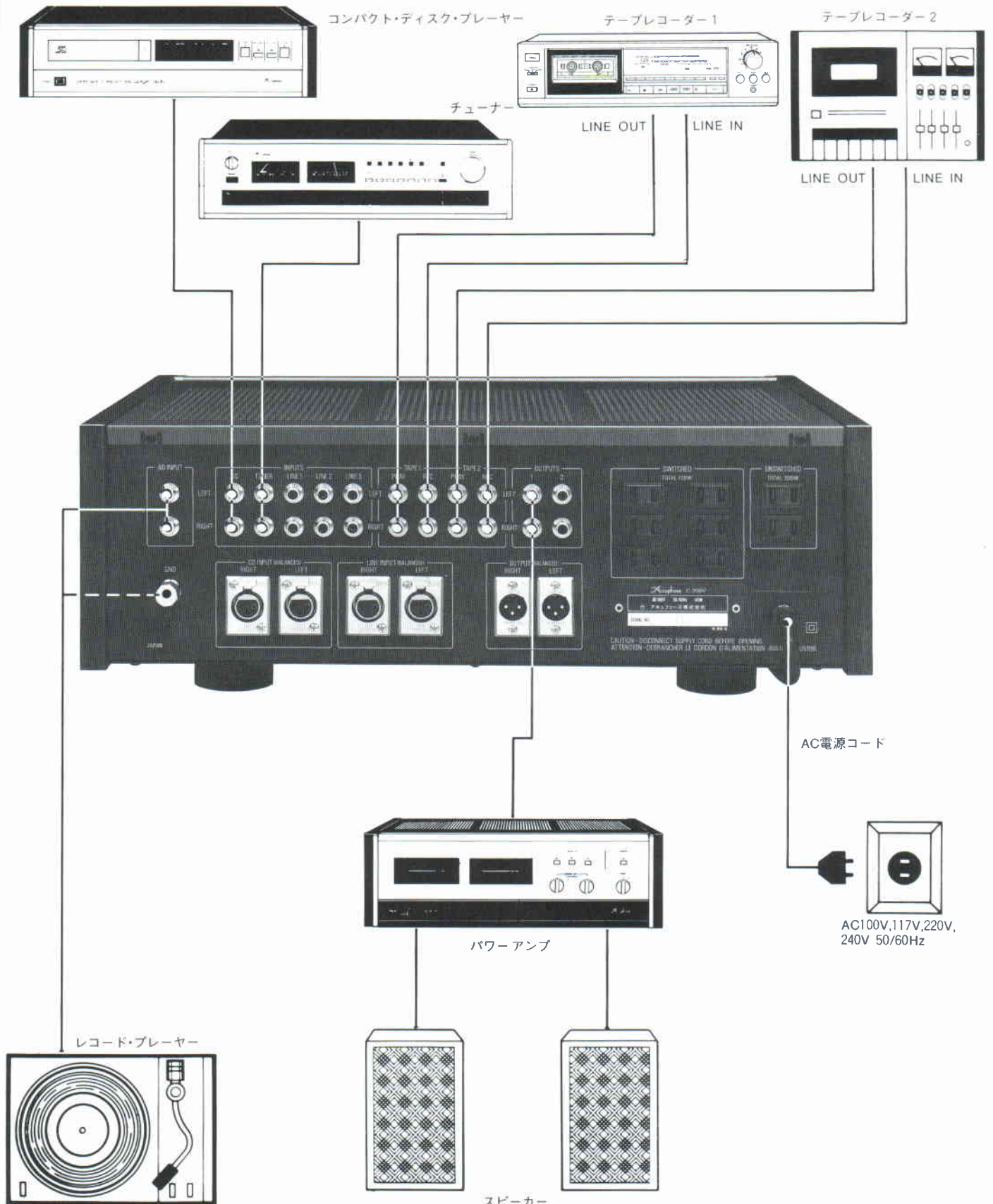
室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)が『W極』ですが、工事をした時期、工事会社によって守られていない場合も多いので、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機のSWITCHED/UNSWITCHEDコンセントも向かって左側が『W極』です。

■AC電源電圧の変更とヒューズについて

C-200Vは使用できる電源電圧を100V、117V、220Vおよび240Vの4段階に切り替えられます。C-200Vの底板側、電源トランスの下にあるジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。また電源1次側のヒューズもジャンクション・ターミナルの近くにありますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社の品質保証課、または、お求めの専門店へご連絡くださいますよう、お願いいたします。

接続図



ご使用方法

■CD(コンパクト・ディスク)をお楽しみになる場合

CDプレーヤーの出力ケーブルをLEFT(左)、RIGHT(右)共に正しく、リアパネル⑪の入力端子へ接続してください。CDプレーヤーを2台以上お持ちのときは、⑪の各入力端子はすべて同じ働きをします。入力したポジションを入力セレクターで選択してください。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、伝送途中の雑音妨害に強みを発揮する“CD INPUT(BALANCED)”端子をご使用になることをお勧めします。接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① CDプレーヤーやパワーアンプと本機の接続を確認し、ボリュームを下げて、本機と共にCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にしてください。
- ② 入力セレクター⑨のCDポジション(または入力したポジション)を選択してください。
- ③ TAPE RECORDERスイッチ⑩が“REC OFF”か“SOURCE”それに⑬のATTENUATORスイッチが“OFF”になっていることを確認してください。
- ④ CDプレーヤーを再生状態にして、VOLUME⑬を上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態の様子を確認してください。CDプレーヤーの出力を可変出力レベル端子から取り出している場合は、必要に応じて調整してください。
- ⑤ MODEスイッチ⑭をまわしてモノフォニック状態にして、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターやプレゼンス・イコライザーの効き具合をお試しください。

■アナログ・ディスク(AD)をお楽しみになる場合

本機は高性能ハイゲイン・イコライザーアンプを内蔵していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。

LPレコードを再生するときは、レコード・プレーヤーの出力ケーブルをリアパネル⑫AD INPUTへ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルといっしょに出ているアース線は下のGND(グラウンド)端子へ接続します。接続終了後は次の手順で操作をしてください。

- ① VOLUME⑬が下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れて⑨入力セレクターを“AD”ポジションにしてください。

- ② 使用するカートリッジがMM(ムービング・マグネット)型などの高出力タイプの場合は、サブパネル内⑧のADスイッチを“MM”ポジションにします。

MC(ムービング・コイル)型カートリッジを使用するときは増幅度の大きい“MC”ポジションにします。MCカートリッジをご使用のときは、次のステップへお進みください。

- ③ MC LOAD⑦でMCカートリッジの負荷インピーダンスを選択します。

MCカートリッジの内部インピーダンス(出力インピーダンスともいう)は2Ω位のものから50Ω前後のものまでかなりの差があります。原則的にはMCカートリッジの内部インピーダンスが20Ω以上のときは、“100Ω”ポジション、それ以下のときは“30Ω”あるいは“10Ω”を使います。つまりカートリッジの内部インピーダンスの2～3倍の負荷インピーダンスを目安にしてセットします。

- ④ ATTENUATOR⑬がOFF、⑭TAPE RECORDERスイッチがREC OFFまたはSOURCEポジションになっていることを確認してください。

- ⑤ カートリッジをレコード面におろし、ボリュームを上げて行くと演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。

- ⑥ モード・スイッチやプレゼンス・イコライザーを操作して再生音の調子をみましょう。

- ⑦ レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でウーファーがゆれたりする場合は、⑮SUBSONICフィルターが有効です。

- ⑧ 最後に、MCカートリッジを使っているときは③で行なった負荷インピーダンスの選択が適切であったか否かを確認する必要があります。カートリッジの内部インピーダンスが低いものでも“100Ω”で受けて大変良い音質が得られる場合もありますので、他のポジションへ切り替えて、ゆっくり時間をかけて聴き込んでご決定ください。

■チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルが左右チャンネル共、正しく接続されていることを確認してください。リアパネル⑯の入力端子は必ずしもTUNERへ入力する必要はありません。

CD再生と同じ要領で入力セレクターを合わせ、テープレコーダー・スイッチやアッテネーターの確認などをしてください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを

上げると放送が聞こえます。

■テープレコーダーで録音・再生をする場合

リアパネル⑭TAPE-1(またはTAPE-2、TAPE FRONT)のREC端子とテープレコーダーのLINE IN端子、PLAY端子とテープレコーダーのLINE OUT端子が左右チャンネルそれぞれ正しく接続されていることを確認してください。

【再生：プレイバック】

テープレコーダーをテープ再生状態にしておいて、スイッチ⑮TAPE RECORDERで“TAPE-1”または“TAPE-2”あるいは“TAPE FRONT”を選択してください。⑯入力セレクターがどの位置にあってもテープを聴くことができます。

TAPE RECORDERスイッチを“SOURCE”や“REC OFF”にすれば、入力セレクターで選択しているプログラム・ソースに戻ります。

【録音：レコーディング】

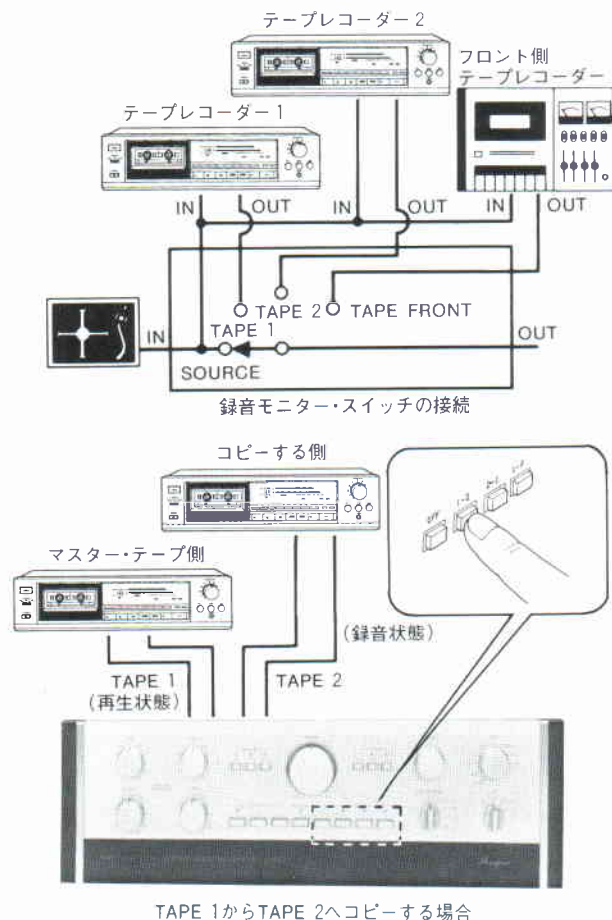
レコーディングをする場合は次の手順で行なってください。

- ①プログラム・ソースを選び、スピーカーから音を出して確認しておいてください。
- ②TAPE RECORDERスイッチ⑮をSOURCEポジションにして録音出力を“ON状態”にしてください。
- ③テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④本機のボリュームやプレゼンス・イコライザー、コンペンセーターなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することもできます。録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。
モード・スイッチが“MOMO(L+R)”になっている場合は、録音出力もモノフォニックになってしまいますから注意してください。
- ⑤録音中にTAPE RECORDERスイッチを“SOURCE”にすればプログラム・ソースのチェック、“TAPE-1”(またはTAPE-2やTAPE FRONT)へ切り替えると、録音されたテープのモニターが、録音を続けながら、できます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。
- ⑥3台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

【テープコピー】

本機にはTAPE COPYスイッチがついていますので、ディスクや放送を聴きながら、まったく独立してテープのコピーができます。テープのコピーを作るときは次の手順で行なってください。

- ①TAPE-1をマスターとしてTAPE-2側へコピーする場合は、テープコピー・スイッチ⑰の“1→2”を押します。逆の場合は“2→1”を押します。
- ②マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のテープレコーダーを録音状態にすればコピーができます。
- ③TAPE-1→TAPE-2でコピーしている場合は、TAPE RECORDERスイッチを“TAPE-1”にするとマスター・テープの音が、“TAPE-2”にするとコピーされたテープの音が聴けます。TAPE-2→TAPE-1のときは逆になります。
- ④コピーが進行しているときでも、TAPE RECORDERスイッチがSOURCEまたはREC OFFにあるときは、コピーとは無関係にディスクやチューナーを聴くことができます



ご注意

■発熱と使用上の注意

本機各ユニットアンプ回路は、全段がA級ドライブになっていますので発熱があり、通電時間が長くなった場合、ケース上面を触ると熱く感じますが、性能や耐久性にはまったく支障ありません。回路部品、機構部品や構造などへの、熱に対する配慮は十分に行なっていますが、狭くて通風の悪い場所への設置は避けてください。また、直射日光の当たるところや暖房器具の近くへの設置も避けるようにしてください。

■パワーアンプや他の機器と直接かさねて設置しないようにしてください

本機はハイゲイン・イコライザーを内蔵したプリアンプであるために、パワーアンプや他の機器の漏洩磁束による電磁誘導によってハム音(ブーンという音)がスピーカーから聴こえることがあります。このような場合は、パワーアンプや他の機器と直接重ねてのご使用は避けると同時に、機器間の距離は10cm以上離すようにし、ラックなどに収納して使うときは、パワーアンプの放熱にもご配慮ください。

■バランス入力端子(XLRコネクター)とアンバランス入力端子(ピンジャック)へ同じ機器から同時に入力しない

本機は2系統のバランス入力を備えておりますが、1台の機器からの出力信号をバランスとアンバランス入力端子へ同時に入力しないようにしてください。

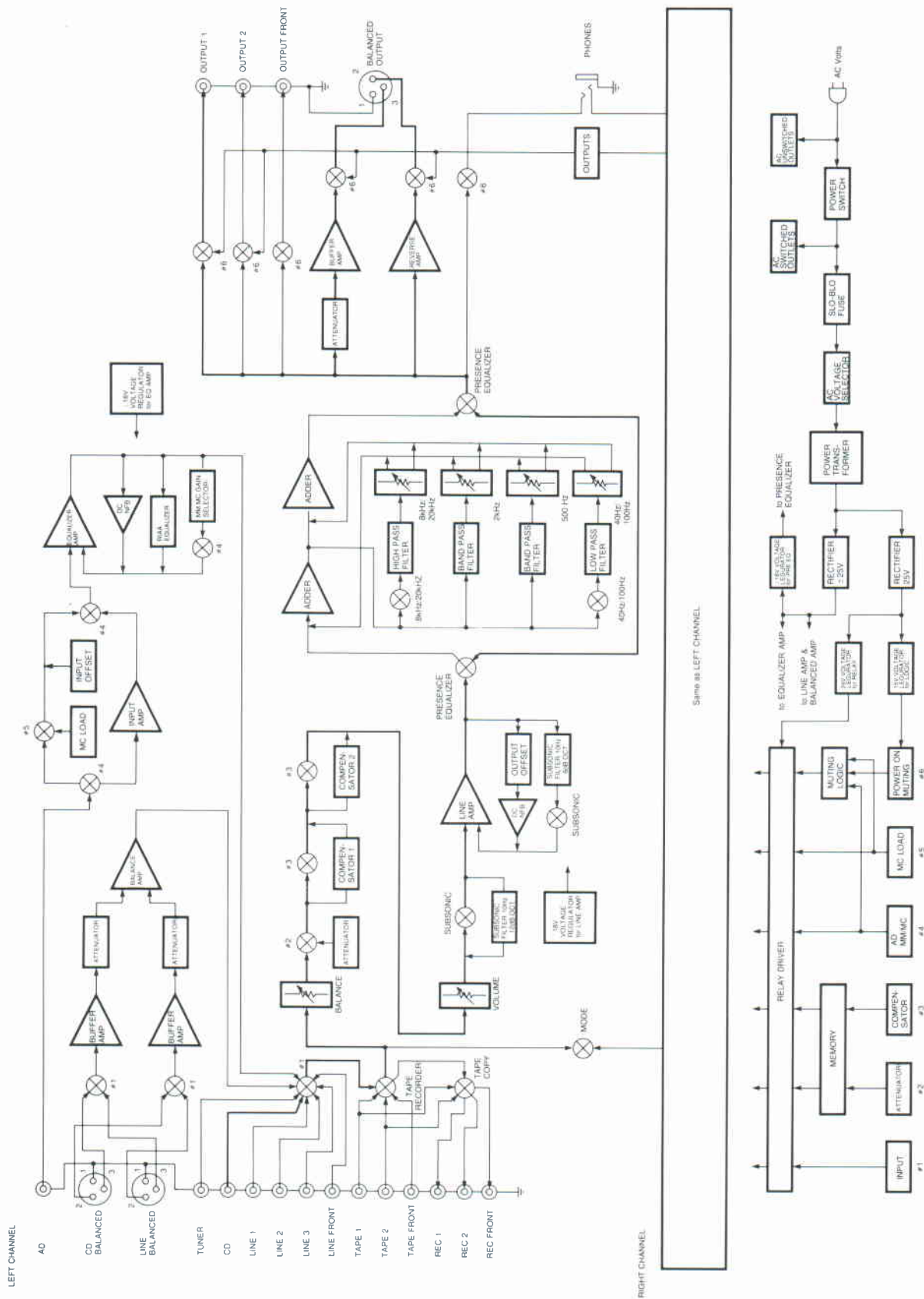
入力セレクターで両端子の信号を切り替えています。接続する機器の出力回路の状態により、アースラインが不都合なループを形成し、不要なトラブルの原因になりますのでおやめください。

■入出力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから実行してください

RCAタイプのピンプラグ(通常のオーディオ機器に使用されているもの)を端子から抜き差しするときは、プラス側、マイナス側ともに同時に入ったり切れたりせず、プラス側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬マイナス側が浮いた状態になって大きなショックノイズを発生し、スピーカーを破損する原因になります。

各機器間の入出力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

ブロック・ダイアグラム



保証特性

【保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる/AD:アナログ・ディスク】

周波数特性

CD、LINE: BALANCED INPUT

1.0~400,000Hz +0、-3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0、-0.2dB

CD、LINE、TUNER、TAPE PLAY: UNBALANCED INPUT

1.0~500,000Hz +0、-3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0、-0.2dB

AD: UNBALANCED INPUT

20 ~ 20,000Hz ±0.2dB

全高調波ひずみ率

0.005%(すべての入力端子にて)

入力感度・インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	EIA出力0.5V時	
AD : MM	4.0mV	1.0mV	47kΩ
AD : MC	0.13mV	0.032mV	10Ω・30Ω・100Ω
UNBALANCED	126mV	31.5mV	20kΩ
BALANCED	126mV	31.5mV	40kΩ(20kΩ/20kΩ)

定格出力・出力インピーダンス

OUTPUT(BALANCED) : 2.0V 50Ω(25Ω/25Ω)

XLRタイプ・コネクター

OUTPUT(UNBALANCED) : 2.0V 1Ω/RCAフォノジャック

TAPE REC : 126mV

200Ω/AD時/RCAフォノジャック

ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 4~100Ω

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート A補正		EIA S/N
	定格入力時 S/N	入力換算雑音	
AD : MM	90dB	-138dBV	85dB
AD : MC	74dB	-152dBV	83dB
UNBALANCED	110dB	-128dBV	91dB
BALANCED	97dB	-115dBV	91dB

最大出力レベル(ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

OUTPUT(BALANCED) : 8.0V/XLRタイプ・コネクター

OUTPUT(UNBALANCED) : 8.0V/RCAフォノジャック

TAPE REC : 9.0V/AD時

AD最大入力電圧(1kHz ひずみ率0.005%)

AD(MM) : 300mV

AD(MC) : 9.5mV

最小負荷インピーダンス

OUTPUT(BALANCED) : 600Ω(300Ω/300Ω)

OUTPUT(UNBALANCED) : 1kΩ

TAPE REC : 10kΩ

ゲイン

CD、LINE、TUNER、TAPE PLAY (UNBALANCED) →

OUTPUT(UNBALANCED): 24dB

CD、LINE、TUNER、TAPE PLAY(UNBALANCED) →

OUTPUT(BALANCED) : 24dB

CD、LINE(BALANCED) → OUTPUT(UNBALANCED): 24dB

CD、LINE(BALANCED) → OUTPUT(BALANCED) : 24dB

CD、LINE、TUNER、TAPE PLAY(UNBALANCED) →

REC OUTPUT : 0dB

CD、LINE(BALANCED) → REC OUTPUT : 0dB

AD(MM) → OUTPUT(UNBALANCED) : 54dB

AD(MM) → OUTPUT(BALANCED) : 54dB

AD(MM) → REC OUTPUT : 30dB

AD(MC) → OUTPUT(UNBALANCED) : 84dB

AD(MC) → OUTPUT(BALANCED) : 84dB

AD(MC) → REC OUTPUT : 60dB

プレゼンス・イコライザー

4バンド方式

周波数 : 40Hz/100Hz切替式、

500Hz、2kHz、8kHz/20kHz切替式

可変範囲: ±10dB

ラウドネス・コンペンセーター(音量調整 -30dB)

COMP-1 : +3dB(100Hz)

COMP-2 : +8dB(100Hz) +6dB(20kHz)

サブソニック・フィルター

10Hz -18dB/oct

アッテネーター

-20dB -∞

使用半導体

117 Tr 20 FET 28 IC 104 Di

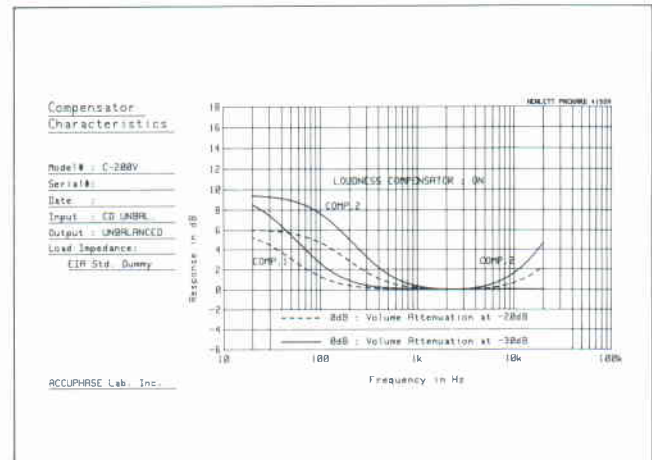
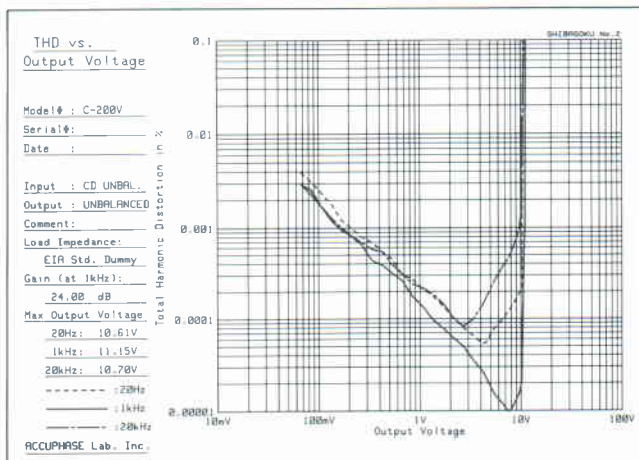
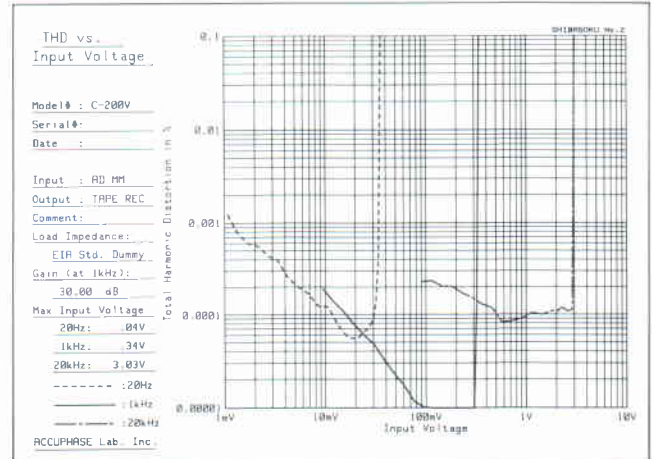
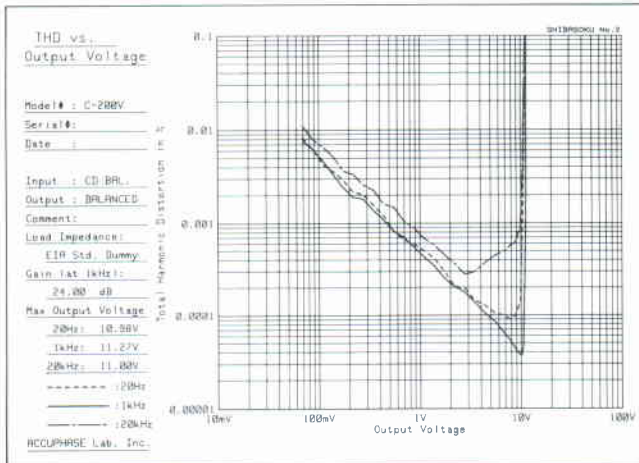
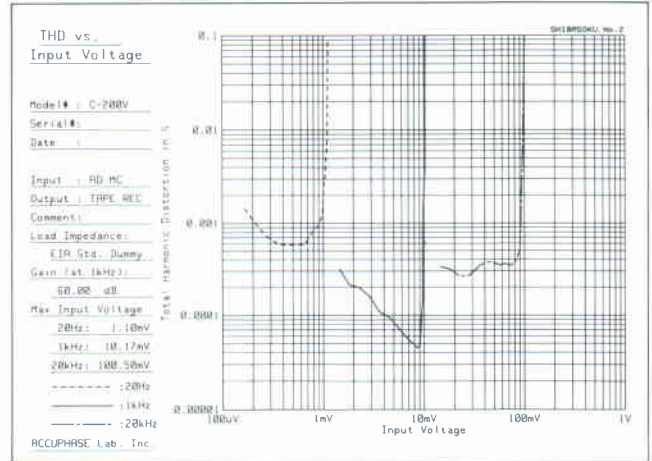
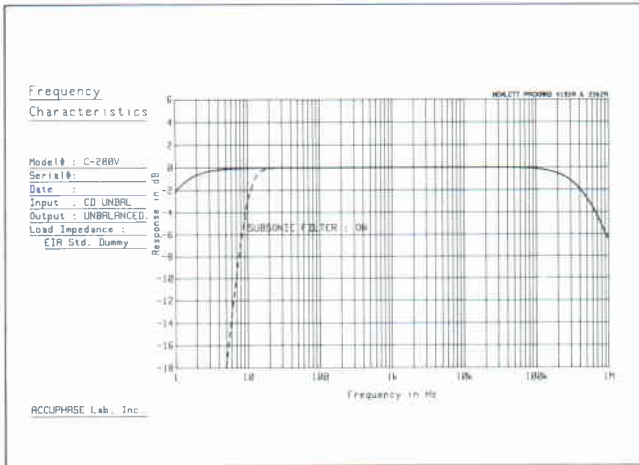
電源・消費電力

100V, 117V, 220V, 240V 50/60Hz
40W

寸法・重量

幅475mm × 高さ170mm(脚含む) × 奥行375mm
15.5kg

特性グラフ





ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒227 TEL(045)901-2771(代表)